

フッサール研究 第23号

2026年3月

目次

研究論文

- 竹村 叡久 他我は自我の形相的な変更か？
——他我の構成に前提される形相エゴについて——1
- 寺前 典子 対面レッスンとオンラインレッスンにおける音楽コミュニケーションの可能性
——身体図式の更新をめぐる考察—— 19
- 中谷 碩岐 デリダは『フッサール哲学における発生の問題』において自身の企図を完遂しているのか
——還元論と否定論を中心としたフッサール/ハイデガー評価の再検討—— 35
- 満原 健 フライブルク詣のはじまり50
- 宮田 勇生 時間意識の無限後退
——『ベルナウ草稿』における予持の二重の充実について—— 72

特集：基礎づけ（グラウンディング）の現象学と分析哲学

- 葛谷 潤 志向性をグラウンドするものとしての『論理学研究』85

特別企画：富山豊著『フッサール：志向性の哲学』合評会

- 秋葉 剛史 志向性と意味
——富山豊『フッサール：志向性の哲学』を読む—— 107
- 千葉 清史 フッサール現象学とダメットの反実在論
——富山豊『フッサール：志向性の哲学』についての一考察——119
- 富山 豊 検証主義的意味論の可能性と反実在論の意味
——千葉・秋葉論文の疑問に答える—— 134